

出水に備えて『洪水対応演習』を実施！！



立山砂防事務所では、出水による土砂災害の発生を想定した洪水対応演習を実施しました。この演習は、土砂災害発生時における事務所の支部体制発令や関係機関への情報伝達、管内の巡視及び災害発生箇所の把握と応急対策・復旧の検討等を行う訓練で、土砂災害が発生した場合に緊急かつ適切な対応を行う事を目的としています。

日時：平成30年4月20日（金）9：00～17：00

場所：立山砂防事務所（3階災害対策室）

参加者：職員全員（及び一部の関係業者）



状況報告及び報告内容の確認



対策・復旧方法の検討



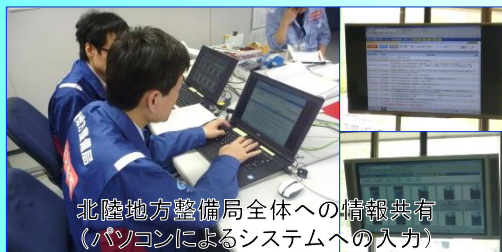
北陸地方整備局、関係自治体への情報共有（画像伝達）



情報の収集・整理



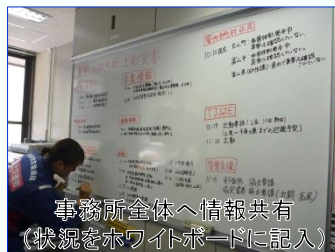
崩壊箇所（想定）の平面図



北陸地方整備局全体への情報共有（パソコンによるシステムへの入力）



局への報告



事務所全体へ情報共有（状況をホワイトボードに記入）

演習内容

1. 降雨状況

- ・ 9時00分 富山県中新川郡立山町芦峯寺千寿ヶ原地先の千寿ヶ原観測所において、累計雨量84mm、時間最大雨量28mmを観測。
- ・ 11時00分 千寿ヶ原観測所において、累計雨量161mm、時間最大雨量32mmを観測。以降、降雨なし。

2. 土砂災害の発生状況

- ・ 称名川右支溪奥荒谷（称名第18号床固の上流約50m）において山腹崩壊が発生。
- ・ 崩壊規模は長さ約200m、幅約50m、平均厚さ約10m。崩壊土砂量は約60,000m³と推定。
- ・ 川幅約100mの内、約90mの幅で堆積している。
- ・ 川の流れは一部確保されており、湛水は確認されない。

3. 立山砂防事務所の対応

- ・ 土石流の発生により下流へ被害を与える恐れがあるため、①関係機関への情報提供 ②土砂堆積箇所の監視 ③応急対策の検討 を実施。
- ・ 崩壊斜面については、ヘリコプターによる上空調査及び地質専門会社による地上からの調査を実施。また、監視カメラ及びワイヤーセンサーによる監視を実施。
- ・ 今後の土砂流出による被害軽減のため、下流の本宮砂防堰堤堆砂敷にて土砂捕捉用のポケット（30,000m³）の掘削を実施。※残りの30,000m³は瀬戸蔵砂防堰堤の堆砂敷で受ける。

【演習後の反省会での討議内容（抜粋）】

- ・ 巡視についてはルート図を付け、予定は点線、実施済みは実線にする等の工夫や確認時刻を記入するようにする。
- ・ 外部からの情報量が少ない。異常や変化があった場合は提供してもらうようにする。
- ・ 概括的被害情報の報告で、携帯の位置情報が反映されていない。早急な対処が必要。
- ・ ホワイトボードは長期の対応も想定して、項目別に整理して記載する工夫が必要。
- ・ 外部が知りたい情報（何が起きたか、今はどうか、今後どうするか）を的確に報告。
- ・ 水谷出張所に情報が伝達されていない。連絡の体制と手段の確立が必要。
- ・ シナリオに詰めが甘さ、情報漏れ、連携の整合が取れていない箇所があった。

今回の演習での課題や反省点を討議し、今後の災害対応に反映します。